

1. 構想の概要

【構想の名称】

TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想：地球規模での健康レベル向上への挑戦

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

- (Goal 1) アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位を確立する。
- (Goal 2) グローバルヘルスデリバリーに主眼を置いた海外フィールド基盤型研究活動を展開して世界規模の健康課題克服のための革新的ソリューションを提供する。
- (Goal 3) グローバルヘルス推進に取り組む国内外機関(国際機関、NGO/NPO、研究機関、フィールド機関、基金など)と強固なパートナーシップ・ネットワークを形成し、フィールドにおける課題克服だけでなく、我が国をはじめとした様々な国・地域における課題克服のため研究/教育/医療の全チャネルを開いて貢献し、双方向性の協力関係を築く。

【構想の概要】

「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現する」ために中心となる、グローバルヘルス推進人材の育成を行う取組である。この取組として、(1)ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革を行い、(2)入学者募集方法から、入試、学士(教養)、学士(専門)、修士/博士課程までを通じた全体的な教育改革を行い、(3)本学海外教育研究協力拠点の拡充/拡大およびそれらを活用した積極的な教育研究を展開する。これら取組を通して、上記の3つのゴールへの到着を目指すとともに、本学における他の様々な取組・活動を推進し、本学の国際通用性・認知度・国際競争力の向上を図る。

構想の概要

部局横断的推進機構である統合教育機構(仮称)を新設し、学部入試から博士課程に至る教育改革を断行し、本学海外拠点の拡大・教育研究への積極的活用により、グローバルヘルス推進人材育成を推進し、健康課題克服のための革新的ソリューションを提供し、グローバルヘルス推進に取り組む国内外機関と強固なパートナーシップを樹立する。

- 各拠点現地研究者/医療者とコラボレーション
- 拠点をベースに、教育研究活動を展開
- 基礎医学、臨床医学、環境社会医学、医療機器開発、社会科学の、集学的アプローチによる研究プロジェクト

グローバルヘルス関連複数分野よりなる専攻を新設
論文引用率アジア1位
研究大学強化促進事業採択

難治疾患研究所
生体材料工学研究所
疾患バイオリソースセンター
種組織疾患ゲノムセンター
脳統合機能研究センター

修士課程の近未来像

- グローバルヘルスリーダー養成コース
疾患予防グローバルリーダー養成コースほか、完全英語履修リーダー養成コースが豊富
- リーダー養成英語放課後プログラム(HSLP)
デザイン思考/コミュニケーション強化補講
- 充実した英語履修によるコースワーク
アジア/太平洋諸国の将来のリーダー候補を惹きつける

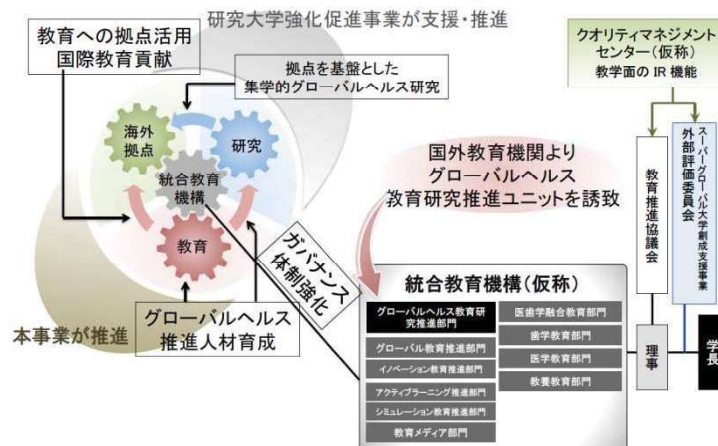
海外ジョイントディグリープログラムを展開
学部/大学院学生の海外経験
拡大に活用(ボランティア/研究実習/臨床実習)

(現在)留学生が全大学院生の13.3%
(博士課程歯学領域で国内トップ)
110年後125%へ

修士課程より、国内最長の研究
実習期間を通してリサーチマイン
ドを涵養
生命科学/疾患予防/グローバル
ヘルス研究に従事する優秀な人
材を輩出

- リーダー養成英語放課後プログラム(HSLP)
多くの学生が卒業までに海外経験(延50%/歯40%)
- トップレベル海外医療系大学と学生交流
ロールモデル発見/キャリア形成支援
- 二カ国語履修可能な教養教育
反転授業による主体的学習
- デザイン思考/コミュニケーション強化補講
高校生公開講座や入試改革による有望シース発掘

実施体制



【10年間の計画概要】

推進体制整備

既存の複数の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整えた統合教育機構（仮称）を全学組織として新設する。平成26年度よりその準備・調整・編成を随時進め、平成28年度に整備を完了する。

入試改革

高大接続の一環として、本学新生を対象とした国際保健問題英語模擬交渉について、高校生にも門戸を開く（平成27年度より）。国際バカロレア入学枠設置や語学力評価におけるTOEFL活用についての検討を進め、平成30年度入学生に対する選抜過程より導入する。

学士（教養）改革

人文社会系科目を中心に二ヶ国語履修を可能とし、反転授業の導入および少人数教育環境創出などによるアクティブラーニングの導入を平成28年度以降開始する。

学士（専門）課程改革

反転授業の導入および少人数教育環境創出などによるアクティブラーニングの導入を平成29年度以降開始する。

修士/博士課程改革

コースワークの充実化および英語化を進め、平成35年度には全大学院科目の59%を英語履修とすることを目標とする。

少人数リーダー養成英語選抜プログラム Health Sciences Leadership Program (HSLP) の拡大

平成28年度より学士課程HSLPの規模拡大（22→30人/学年）を図り、さらに同年度より大学院版HSLP（修士/博士課程学生対象）を開講する。

グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）の開設

国際公募等にてグローバルヘルス関連大学院分野を組織し同分野を中心にグローバルヘルスリーダー養成コースを開講する。平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講する。

【特徴的な取組（国際化、ガバナンス改革、教育改革等）】

- ・ 海外拠点/提携校増数により研究実習および臨床実習経験者を10年間かけて増数し、平成35年度には医学科50%、歯学科40%、保健衛生学科25%が卒業までに海外留学/実習/研修を経験することを目標とする。
- ・ 本学における外国人留学生数は、博士課程医歯学系においてすでに国内第1位であるが、大学院コースワークの英語化を含めた大学院課程改革を行い大学院教育の国際標準化を図り、10年後には25%へ増数する。
- ・ ガーナ・チリ・タイにおける本学海外教育研究協力拠点を中心にフィールド基盤型グローバルヘルス研究協力活動を展開/支援し、学士課程の研究/臨床実習、そして修士/博士課程での研究/プロジェクト活動において、それら機関を積極的に利用する。
- ・ 本学の帰国外国人留学生が多いアジア諸国を中心に、国別の本学OB 同窓会組織設立/拡充を進め、優秀な留学生の確保とともに、彼らが勤務する行政機関/教育研究機関とグローバルヘルス研究教育活動のための連携を行う。
- ・ これまで個別の組織、システムに管理、蓄積されていた教育・研究・診療及び大学管理運営情報等を一括してビッグデータとして蓄積し、教育効果や教育評価の分析、研究実態の分析、診療情報の分析を通して、教育・研究・診療の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供するクオリティマネジメントセンター（仮称）を設置し、同センターからの教育・研究・診療活動評価に関する数値化されたエビデンスに基づき、PDCA サイクルを確立し、学内の合意形成/学内資源の再配分を進める。
- ・ 教育改革を進めるために、様々な部局に散在する既存の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整え、統合教育機構（仮称）を設置し、同機構が全学的な教育開発/運営/支援および教員の教育力強化を行う体制を整える。
- ・ 学士/修士/博士課程科目やコースワークにおいて、①教員（TAを含む）対学生比率向上による少人数学習環境の創出および②反転授業の利用の推奨による学生の主体的学習を促すカリキュラムに変革する。また、③グローバルヘルス推進人材育成の観点から重要な学士（教養）課程の人文社会系科目を中心に二ヶ国語履修化を積極的に進める。

【海外の大学との連携の推進方策】

（協定機関の増数） 学生交流も含む包括的学術交流協定締結機関（平成25年5月現在で76大学）を増数する。

（海外臨床学習機会提供ネットワーク加盟） 近年、学士課程医学教育においては、国際認証に対する要求度上昇などを受け、特に臨床実習期間の海外学生受入において、個別協定締結に応じる欧米諸国機関が減少している。そこで、本学は米国医科大学協会が設立した海外臨床学習機会提供ネットワーク Global Health Learning Opportunities (GHLO) への加盟を行い、臨床実習留学機会の拡大を図る。GHLOは、一定の基準を満たして加盟が許可された教育機関間では、インターネット上の共通応募システムを通して、学生が自由に留学申請でき、本学学生の派遣、そして学士課程留学生の受け入れ規模の拡大が期待できる。

（グローバルヘルス分野における世界的トップ機関との連携） 開講予定のグローバルヘルスリーダー養成コース（修士/博士課程）に関して、グローバルヘルス分野における世界的トップ機関と、教員交流、コースワーク開発、研究活動などにおいて連携する。

（ジョイントディグリープログラム開講） 一つの大学だけでは提供できない魅力あるプログラムを構築することで、優秀な学生を獲得し、国際通用性の高い人材を育成することにより、海外における本学のプレゼンスを強化・向上させるため、海外拠点にて連携している現地教育機関とジョイントディグリープログラムを開講する。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行う。留学生数および割合において、平成26年度(通年)および平成27年度5月1日時点での実績で、すでに平成28年度の目標数を上回っている。

日本人学生に占める留学経験者の割合

入学直後の英語模擬交渉ワークショップ、帰国した上級生からの報告会、海外からの留学生との交流イベントなどで動機付けを行い、また留学機会拡大を図っている。平成26年度実績は大幅増数が見られ、最終(平成35年度)目標に大きく近づいた。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心に二ヶ国語履修化を進めるべく、「教養教育改革に関する検討会」において議論および調査を開始した。また修士/博士課程では既存コースワークの英語履修化を進める。平成26年度では、いずれも順調に増数された。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

学士課程学生においては、本学外国語力基準達成者数が順調に増数した。修士/博士課程学生においてはTOEFLIによる語学レベル測定を新規で平成26年度末に実施したが、達成者数は既に平成28年度目標を上回っている。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じぬ学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に6機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計14名)、大学院学生研究奨励賞(合計10名)、学部学生海外拠点派遣助成制度(合計20名)等の大学基金を用いた奨学金制度を整備・拡充した。

ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

語学力を有する事務職員の積極的採用の推進、語学研修機会の提供、人事評価への反映によるインセンティブ化により国際化対応力を高めるべく取り組む。本学事務職員外国語力基準達成者数は、目標達成に向け着実に増加している。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構(仮称)の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制を構築するため、既存の複数の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整えた統合教育機構(仮称)を全学組織として新設するための準備・調整・編成を統合教育機構検討ワーキンググループにて開始した。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合国際機構(仮称)の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の国際競争力強化、国際戦略策定および推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に断行するために、関連業務に従事する教職員を一括集約した統合国際機構(仮称)を新設するための準備・調整・編成を統合国際機構検討ワーキンググループにて開始した。

IR機能の強化・充実

統合教育機構設置にむけての準備と平行して、教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を通して、教育の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供するIR部門(仮称)を統合教育機構内に設置すべく、準備・調整・編成を統合教育機構検討ワーキンググループにて開始した。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

学士(教養)課程における反転授業の導入のための調査及び検討を、反転授業推進ワーキンググループを組織して開始、平成27年度に2科目において試行的に実施した。

学生の主体的参加と大学運営への反映の促進

医学部医学科においては、カリキュラムの検討を行う組織である教育委員会により設置されるカリキュラム評価専門委員会(仮称)に、学生が学内外の外部有識者とともに常任委員として参加する形態について検討を開始した。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

入学試験の語学力評価への TOEFL 活用や国際バカロレアによる入学枠設置等についても入学試験ワーキンググループで検討を進めた。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

入学直後の英語模擬交渉ワークショップ、帰国した上級生からの報告会、海外からの留学生との交流イベントなどで動機付けを行い、また留学機会拡大を図っている。平成26年度実績は平成28年度目標を既に上回っている。

HSLP履修者数

少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program)の拡充および取組規模拡大にむけた検討・準備(カリキュラムおよび学習環境)を開始した。平成28年度より学士課程HSLP規模拡大(22→30人/学年)、さらに同年度より大学院版HSLP(修士/博士課程学生対象)を開講予定である。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置などの改革を行う。採択年度である平成26年度にも僅かだが増数があった。

新設するグローバルヘルスリーダー養成コース(仮称)(修士/博士課程)履修者数

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員/ユニット誘致のための具体的な候補者選定にむけて、グローバルヘルス分野における世界的トップ機関に赴き議論を開始した。平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講する予定であるため、平成26年度の履修者数は0人となっている。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈2014年度に履修開始したHSLP第2期生〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にしたコースを開講、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成する。平成26年度は開設にむけての連携先および招聘教員選定にむけての調査・交渉を開始した。

受入留学生の増数に向けての取組

学士課程受入留学生増数に向け、海外臨床学習機会提供ネットワーク Global Health Learning Opportunities (GHLO)に正式加盟した。これにより、多くの加盟校から優秀な留学生の受入増が期待できる。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

大学紹介動画を作成し、本学の特色ある教育、世界をリードする研究およびその推進体制、そして教育課程の国際化や研究の国際競争力強化などの国際化戦略と取組を紹介した。また、本学の国際的地位向上および知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者などに、グリーティングカードとともに広報誌や英語版本学年報を送付した。

海外教育機関とのジョイントディグリープログラム

海外拠点にて連携している現地教育機関(チリ大学およびチュラロンコン大学)と平成28年度にジョイントディグリープログラムを開講するため、設置申請準備を行った。

【海外の大学との連携の実績】

(協定機関の増数) 平成26年度は新たに6機関と協定を締結
(海外臨床学習機会提供ネットワーク加盟) 個別協定締結に加え、より多くの留学先確保や受入学生増数のため、Global Health Learning Opportunities (GHLO)に加盟した。
(グローバルヘルス分野における世界的トップ機関との連携) グローバルヘルス分野の世界的トップ機関から教員を招聘するため、米国で候補者調査を実施した。
(ジョイントディグリープログラム開講) 海外連携大学であるチリ大学およびチュラロンコン大学とジョイントディグリープログラムのカリキュラムや協定書などについて協議を重ねた結果、当初計画より早期の平成27年3月に文部科学省に設置申請を行った。



〈国立台湾大学との医学部間学術交流協定締結〉

■ 自由記述欄

情報発信

「医療分野でのグローバル人材育成」をテーマとした国際フォーラムを開催した。フォーラムでは、佐野文部科学省大臣官房審議官(高等教育担当)による基調講演の後、本学、新潟大学、ソウル国立大学、そしてチュラロンコン大学におけるグローバル教育・グローバル人材育成の紹介があり、最後に「医療系グローバル人材育成における大学の役割と取組」に関するパネルディスカッションを行った。教育関係者、企業関係者、高校生など合計70名が参加した。



〈グローバル人材育成に関する国際フォーラム〉

外国人OBの積極的活用

本学の帰国外国人留学生が多いアジア諸国を中心に、国別の本学OB同窓会組織設立/拡充を進めるための第1ステップとして、帰国留学生とのネットワークを構築し、留学生情報を一元的に管理するため、SNS/留学生管理サービスを導入した。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(歯科医学グローバルリーダー養成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業)などを中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数および割合において平成28年5月1日時点での実績で、すでに平成28年度の目標数を上回っている。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修(グループおよび個人特訓)を、外部機関の協力のもと実施した。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、平成28年度に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始/拡大する。修士/博士課程におけるコースワークは、平成27年度開設科目(通年)の27%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数した。修士/博士課程については、平成29年度入試からのTOEFL試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に8機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計14名)、大学院学生研究奨励賞(合計8名)等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充した。また、派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供する部門を後述する統合国際機構内に新設した。

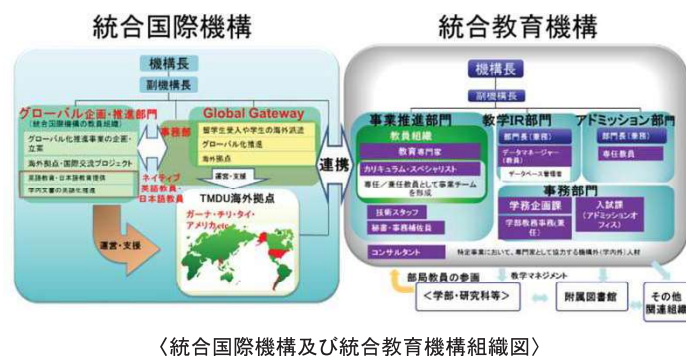
ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、目標達成に向け着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより、語学力の向上度合いを測りつつ、事務職員の国際化対応力を高める更なる効果的な取組を検討する。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した。



IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を通して、教育の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供する教学IR部門を統合教育機構内に配備した。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構(上述)内に、アクティブラーニング推進を担当する教育技法開発チームを設置し、全学的にアクティブラーニングを推進するためのインフラ整備と教員研修を長期的視点に立ち進める体制を整備した。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

学士課程では平成30年度より特別選抜(推薦入試・国際バカロレア入試・帰国生入試)枠を設置すること、そして同選抜では英語力評価方法としてTOEFLやIELTSなどの外部試験を活用することが決定した。修士/博士課程では平成28年度より一般選抜において英語力評価方法としてTOEFLを導入することが決定した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びている。他方、特に医学科においては複数の学年に存在する留学機会に同一学生が応募することが少なく、結果「卒業生に占める海外経験者の割合」としては伸びが不十分となっている。今後のさらなる増数のために、学士課程においては低学年での本学海外拠点での研究・診療ボランティア活動などについての検討・企画を進めている。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数

学士課程学生対象プログラムについては、正規履修生募集人数をそれまでの20名から平成27年度には25名に拡大し、平成28年度には30名に拡大する予定としている。また正規履修生に加え、より多くの学生が本グローバル教育機会に参加できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したassociate membershipを設立(各学年20~30名程度を予定)し、平成28年度から募集開始することとした。修士/博士課程学生対象プログラムの平成28年度内開講を計画しており、それにむけ各課程で学ぶ学生へのヒアリングなどを行い、カリキュラム策定を進めている。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置などの改革を進め、すでに平成28年度目標は達成している。

新設するグローバルヘルスリーダー養成コース(仮称)(修士/博士課程)履修者数

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員を獲得した(国際健康推進医学分野長1名、国際保健医療事業開発学分野長1名)。彼らを中心に、開講(平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講予定)にむけた体制準備とカリキュラム策定が行われている。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈2015年度に履修開始したHSLP第3期生〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開設し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成27年度は同コース開設と運営で中心的役割を果たす教員を獲得し、体制準備とカリキュラム策定を開始した。

受入留学生の増数に向けての取組

学士課程受入留学生増数に向け、学生交流協定校の増数を図るとともに、アメリカ医科大学協会が設置した海外臨床留学のための医科大学連盟(Global Health Learning Opportunities, GHLO)に正式に加盟した。加盟する全世界からの50余校の学生は、一元化された情報提供・応募システムより留学先を選定でき、留学希望学生の効率的な情報収集が可能になるため負担軽減が図られる。GHLOに加入し、多くの加盟校からの優秀な留学生の受入増が期待される。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者などに、グリーティングカードとともに英語版広報誌を送付した。海外向け研究情報冊子TMDU Research Activitiesを企画して発行した。また、TMDU Research ActivitiesのデータをNature Publishing Groupによるターゲティングメールで海外の研究者向けに配信した。米国科学振興協会(AAAS)が提供しているオンラインニュースサービスのEurekAlertを、新規に利用してプレスリリースを掲載することで世界の報道関係者に情報を発信した。世界的な大学ランキング機関(英国の高等教育機関情報誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)およびクアクアレリ・シモンズ(QS))に本学の教育研究などに係わる情報を提供した。この情報と独自の調査によりTHEから発表されたTHE World's Best Small Universities(世界最高の小規模大学を選出するランキング)において、学生数に対する教員数の割合の高さや、論文の被引用回数などの教育・研究の質を示す指標で高く評価され、本学は日本で第1位、世界で第12位の大学に選出された。

海外教育機関とのジョイントディグリープログラム

海外拠点にて連携している現地教育機関(チリ大学およびチュロンコン大学)と平成28年度にジョイントディグリープログラムを開講するため、平成27年3月に設置申請を行い、審査の結果、平成27年6月に我が国で初めてジョイントディグリープログラムを運営するための2つの国際連携専攻の設置が認められた。なお、チリ大学とのジョイントディグリープログラムは平成28年4月より開始され、チュロンコン大学については平成28年8月より開始の予定である。

【海外の大学との連携の実績】

(協定機関の増数) 平成27年度は新たに8機関と協定を締結(連携のもとでの学生交流実績) 平成27年度も、インペリアル・カレッジ・ロンドン(医学科)やチュロンコン大学(医学科、歯学科、保健衛生学科)等、多くの海外大学との学生交流実績を上げた。中でもオーストラリア国立大学には、本学より過去最多の10名の医学科学生を派遣し、また同大学から3名の学生を受け入れ、本学で研究や臨床実習に従事した。更に、平成27年度に学術交流協定を締結したポストン大学からは4名の歯学科学生が来日し、臨床実習に従事した。平成28年度には本学の学生が2名、同大学に派遣予定である。

(世界トップ機関との研究連携実績)

Harvard Medical School(HMS)と研究レベルでの連携強化をめざし、若手研究者の長期派遣とHMSからの研究者招聘を組織的にを行い、若手研究者間のネットワークや、HMSが持つ全世界的なネットワークの活用を通して、本学の各研究グループが、世界的なネットワークの中でトップレベルの一員として広く認知されることを目指した国際的共同研究ネットワークを構築するための取組を進めている。



〈チリ大学、チュロンコン大学とのジョイントディグリープログラム協定調印式〉

■ 自由記述欄

海外で活躍する卒業生による、キャリア形成/グローバル教育への協力

海外トップ教育研究機関で活躍している本学卒業生を短期招聘し、キャリア形成およびグローバル教育のための講義や交流会を集中的に開催する特別プログラムを開始し、平成27年度にはインペリアル・カレッジ・ロンドンで麻酔・疼痛・集中治療分野主任教授をされている高田正雄先生を招聘し、大学院生対象特別講義、英語研究プレゼンテーション上達レッスン、キャリア形成に関する対話型講義を実施した。



〈高田正雄先生による特別講義〉

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)について、高大連携先高等学校学生にも門戸を開き、平成27年度は2校から18名が参加した。平成28年度は4校から28名が参加予定である。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東京医科歯科大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(歯科医学グローバルリーダー養成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業)などを中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数および割合においてすでに平成28年度の目標数を達成した。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修(グループおよび個人特訓)を、外部機関の協力のもと平成27年度より毎年実施している。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、翌年度内に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始した(平成28年度は9科目を開講)。修士/博士課程におけるコースワークは、平成28年度開設科目(通年)の52%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数した。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に3機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計14名)、大学院学生研究奨励賞(合計5名)等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充し、平成28年度には学士課程学生の合計110名が海外留学に参加した。統合国際機構における「Global Gateway」部門において、海外への派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供している。

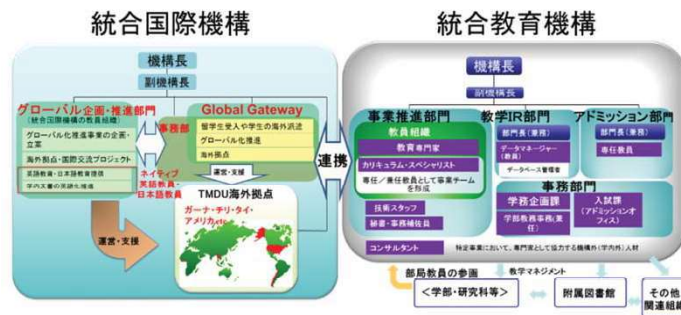
ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、平成25年度は17名であったが、平成29年度には30名に達し、目標達成に向け着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進と適所配置、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより語学力の向上度合いを測り、事務職員および事務体制の国際化対応力強化を図っている。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した(いずれも平成27年度設置)。外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を統合国際機構所属とし(兼任を含む)、本学教育改革・グローバル化推進のための様々な案件に取り組む複数のチームを、それぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想を推進している。



〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を行う教学IR部門を統合教育機構内に配備し、教育の継続的質改善および大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供している。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構内にアクティブラーニング推進を担当する教育技法開発チームを設置し、全学的にアクティブラーニングを推進するためのインフラ整備と教員研修を長期的視点に立ち進める体制を整備した。平成28年度に作成した本学におけるアクティブラーニングの定義を踏まえ、平成29年度よりその導入拡大のための教材作成支援や教育方法習得のための教員研修を開始する。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

平成30年度入試(平成30年4月入学)より特別選抜 I (推薦入試)、特別選抜 I (国際バカロレア入試)及び特別選抜 II (帰国生入試)を実施予定であり、いずれの入試においても、TOEFL iBTテスト等のスコアレポートを、選抜のための評価の一つとして活用する。修士/博士課程については、平成29年度入試(平成29年度入学)からのTOEFL ITP試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会の拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びている。医学科においては低学年でのアジアにおける本学協定校および関連医療機関での医療実態把握およびボランティア活動などを目的とした新規プログラムを平成28年度より開始した。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数
 学士課程学生対象プログラムについては、正規履修生募集人数をそれまでの20名から平成27年度には25名、平成28年度には30名に拡大した。また正規履修生(フルメンバーシップ)に加え、より多くの学生が本グローバル教育機会に参加できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したアソシエイトメンバーシップ(アソシエイツ)を設立し、平成28年度には12名がアソシエイツとして登録した。修士/博士課程学生対象プログラムは平成28年度に開講し同年度には2つのワークショップを実施、平成29年度よりコースワークを開講した。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置、大学院版HSLPの開講などを進め、外国人留学生の増数を図り、多様性に富む学修・研究環境の整備を進めている。

新設するグローバルヘルスリーダー養成コース(仮称)(修士/博士課程)履修者数

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員(国際健康推進医学分野長1名、国際保健医療事業開発学分野長1名)を中心に、開講(平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講予定)にむけた体制準備とカリキュラム策定を進めている(米国公衆衛生大学院での取組の調査、必須/選択科目および研究内容の検討、講師確保など)。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈2016年度に履修開始したHSLP第4期生〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開講し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。開講(平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講予定)にむけた体制準備とカリキュラム策定を進めている。

受入留学生の増数に向けての取組

学士課程受入留学生増数に向け、学生交流協定校の増数を図るとともに、アメリカ医科大学協会が設置した海外臨床留学のための医科大学連盟(Global Health Learning Opportunities, GHLO)に正式に加盟した。加盟する全世界からの50余校の学生は、一元化された情報提供・応募システムにより、加盟校が提供する質の高い留学プログラムの中から留学先を選定できる。GHLOに加入し、多くの加盟校からの優秀な留学生の受入増が期待される。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者などに、グリーティングカードとともに英語版広報誌を送付している。また、海外向け研究情報冊子TMDU Research Activitiesを発行するとともに、TMDU Research ActivitiesのデータをNature Publishing Groupによるターゲティングメールで海外の研究者向けに配信した。米科学振興協会(AAAS)が提供しているオンラインニュースサービスのEurekAlertを利用してプレスリリースを掲載することで世界の報道関係者に情報を発信した。世界的な大学ランキング機関(英国の高等教育機関情報誌タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)およびクアクアレリ・シモンズ(QS))に本学の教育研究などに係る情報を提供した。この情報と独自の調査によりTHEから発表されたTHE World's Best Small Universities(世界最高の小規模大学を選出するランキング)において、学生数に対する教員数の割合の高さや、論文の被引用回数の多さなどの教育・研究の質を示す指標で高く評価され、本学は日本で第1位、世界で第17位の大学に選出された。

海外教育機関とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)

国際性豊かな医療人の育成の推進及び本学の国際競争力強化のため、平成28年4月にチリ大学(UCh)とのJDPである国際連携医学系専攻を開講し、学生1名が入学した。同年10月及び12月にUCh教員が本学を訪問し、教職員FD研修及び会議を行い、学生指導に係る情報共有に加え、両大学教員による共同研究の可能性について議論を行った。同年8月にはチュラロンコン大学(CU)とのJDPである国際連携歯学系専攻を開講し、学生3名が入学した。開講直後に本学教員がCUから招聘され、現地で直接学生相談・指導及び簡単な講義を行った。

海外教育機関との連携実績

(協定機関の増数) 平成28年度は新たに3機関と協定を締結
(連携のもとでの学生交流実績) 平成28年度も、インペリアル・カレッジ・ロンドン(医学科)やチュラロンコン大学(医学科、歯学科、保健衛生学科)等、多くの海外大学との学生交流実績を上げた。中でもオーストラリア国立大学には、本学より過去最多の10名の医学科学生を派遣し、また同大学から3名の学生を受け入れ、本学で研究や臨床実習に従事した。更に、平成27年度に学術交流協定を締結したボストン大学からは4名の歯学科学生が来日し、臨床実習に従事した。平成28年度には本学の学生を2名、同大学に派遣した。
(世界トップ機関との研究連携実績)

Harvard Medical School(HMS)と研究レベルでの連携強化をめざし、若手研究者の長期派遣とHMSからの研究者招聘を組織的に行い、若手研究者間のネットワークや、HMSが持つ全世界的なネットワークの活用を通して、本学の各研究グループが、世界的なネットワークの中でトップレベルの一員として広く認知されることを目指した国際的共同研究ネットワークを構築するための取組を進めている。



〈TMDU-CUのJDP第1期生〉



〈チリ大学教員による学長表敬訪問〉



〈笠原典之先生による特別講義〉

■ 自由記述欄

海外で活躍する卒業生による、キャリア形成/グローバル教育への協力

海外トップ教育研究機関で活躍している本学卒業生を短期招聘し、キャリア形成およびグローバル教育のための講義や交流会を集中的に開催する特別プログラムを平成27年度より開始した。平成28年度には英国・米国で活躍する卒業生をそれぞれ1名ずつ招聘し、大学院生対象特別講義、英語研究プレゼンテーション上達レッスン、キャリア形成に関する対話型講義を実施した。

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)において、平成27年度より高大連携先高等学校生徒にも門戸を開き、平成28年度は4校から27名が参加した。

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東京医科歯科大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(歯科医学グローバルリーダー養成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業)などを中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数が順調に増数した。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修(グループおよび個人特訓)を、外部機関の協力のもと平成27年度より毎年実施している。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、翌年度内に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始した(平成29年度は16科目(昨年比7増)を開講)。修士/博士課程におけるコースワークは、平成29年度開設科目(通年)の57%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数した。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に3機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計13名)、大学院学生研究奨励賞(合計3名)等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充し、平成29年度には学士課程学生の合計167名(昨年比57名増)が海外留学に参加した。統合国際機構における「Global Gateway」部門において、海外への派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供している。

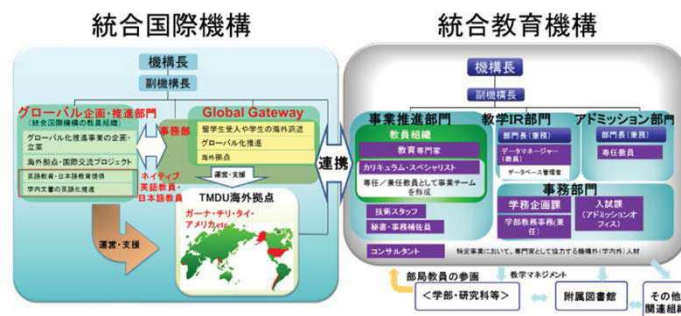
ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、平成25年度は17名であったが、平成30年度には30名に達し、目標達成に向け着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進と適所配置、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより語学力の向上度合いを測り、事務職員および事務体制の国際化対応力強化を図っている。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留學生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した(いずれも平成27年度設置)。外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を統合国際機構所属とし(兼任を含む)、本学教育改革・グローバル化推進のための様々な案件に取り組む複数のチームを、それぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想を推進している。



〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を行う教育IR部門を統合教育機構内に配備し、教育の継続的質改善および大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供している。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構教育技法開発チームが中心となり、アクティブラーニング推進の全教員を対象とした必修教員研修を平成29年度に開始し、教育理論の理解、教育技法および教材作成技能の習得を図っている。さらに今後は、同教員研修で学んだものを実際の担当授業で活用できるよう、少人数制の選択研修(教材作成演習等)を複数回実施し、希望する教員全員に受講させることするなど、より発展的な取組を予定している。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

平成30年度入試(平成30年4月入学)より特別選抜I(推薦入試)、特別選抜II(国際バカロレア入試)及び特別選抜III(帰国生入試)を開始した。いずれの入試においても、TOEFL iBTテスト等のスコアレポートを、選抜のための評価の一つとして活用している。修士/博士課程については、平成29年度入試(平成29年度入学)からのTOEFL ITP試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会の拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びている(平成29年度新規開始留学プログラムで11名が留学、平成30年度新規開始予定の留学プログラムでさらに14名増数を予定)。医学科においては低学年でのアジアにおける本学協定校および関連医療機関での医療実態把握およびボランティア活動などを目的とした新規プログラムを平成28年度より開始している。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数

学士課程学生対象プログラムについては正規履修生(フルメンバーシップ)定員増数とともに、より多くの学生が様々な形で本プログラムを利用できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したアソシエイトメンバーシップ(アソシエイト)を設立し拡大を図っている(平成29年度末現在、メンバー110名、アソシエイト22名)。修士/博士課程学生対象プログラムは平成28年度に開講、平成29年度は61名が新規履修開始した。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置、グローバルヘルスリーダー養成コースの開講などを進め、外国人留学生の増数を図り、多様性に富む学修・研究環境の整備を進めている。

新設するグローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士課程)履修者数

アジア地域を中心とした優秀な学生を集め、地球規模の健康課題に対して生物・社会的な両面から解決にあたる人材育成・輩出のために、完全英語履修コースとし、春および秋入学を実施するとともに、ハーバード大学、ジョンズホプキンス大学、世界保健機関(WHO)などから教員を招聘し短期集中講義を行うことなどで充実化を図る。修士コースは平成30年度に開講し、博士コースは平成32年度開講予定である。平成29年11月には、WHOの非感染性疾患のDirectorを招聘し、本コースのキックオフシンポジウムを開催した。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈グローバルヘルスリーダー養成コースキックオフシンポジウム〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開講し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成30年度に修士コースを開講した。平成29年11月には、WHOの非感染性疾患のDirectorを招聘し、本コースのキックオフシンポジウムを開催した。平成32年度には博士コースを開講予定である。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者、世界大学ランキング上位校などに、グリーンディングカードとともに英語版広報誌を送付している。また、海外向け研究情報冊子TMDU Research Activitiesを発行するとともに、TMDU Research ActivitiesのデータをNature Publishing Groupによるターゲティングメールで海外の研究者向けに配信した。米国科学振興協会(AAAS)が提供しているオンラインニュースサービスのEurekAlertを利用してプレスリリースを掲載することで世界の報道関係者に情報を発信した。Nature Publishing Groupが発行する「Nature Index Japan2018」へ本学の国際広告記事を掲載し、本学の研究について情報を発信した。世界的な大学ランキング機関(英国の高等教育機関情報誌タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)およびクアクアレリ・シモンズ(QS))に本学の教育研究などに係わる情報を提供した。この情報と独自の調査によりQSから発表されたQS World University Rankings by Subjectにおいて、本学はMedicine分野で日本第4位、Dentistry分野で世界第5位の大学に選出された。

海外教育機関とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)

平成29年10月にチリ大学(UCh)とのJDPである国際連携医学系専攻に学生2名が入学し、在学学生は3名となった。11月にはUCh教員が本学を訪問し、教職員FD研修及び会議を行い、平成30年3月には自己点検・評価及び外部評価を実施した。またチュラロンコン大学(CU)とのJDPである国際連携歯学系専攻においては、平成29年8月に3名が入学し、在学学生は6名となった。10月には本学教員がCUから招聘され、現地で直接学生相談・指導及び簡単な講義を行い、平成30年2月には、自己点検・評価、外部評価及びFD研修を実施した。

海外教育機関との連携実績

(協定機関の増数) 平成29年度は新たに3機関と協定を締結

(連携のもとでの学生交流実績) 平成29年度も、インペリアル・カレッジ・ロンドン(医学科)やチュラロンコン大学(医学科、歯学科、保健衛生学科)等、多くの海外大学との学生交流実績を上げた。中でも、本学は米国医科歯学協会が設立する海外臨床医学学習機会提供ネットワーク(Visiting Students Learning Opportunities, VSLO)に加盟するわが国における数少ない機関の一つであるが、VSLOを利用した学生派遣および受入が(それぞれ1名、2名)開始された。

(連携のもとでの教職員交流実績)

平成25年度より台北医科大学と研究面での情報交換と双方の教職員間の交流を深めることを目的とした合同シンポジウムを開催しており、第4回目となる平成29年度は、「癌」をテーマとし、双方から各6名ずつ計12名の講演者が講演及びディスカッションを行った。

(世界トップ機関との研究連携実績)

昨年度に引き続きHarvard Medical School(HMS)と研究レベルでの連携強化をめざし、若手研究者の長期派遣とHMSからの研究者招聘を組織的にを行い、若手研究者間のネットワークや、HMSが持つ全世界的なネットワークの活用を通して、本学の各研究グループが、世界的なネットワークの中でトップレベルの一員として広く認知されることを目指した国際的共同研究ネットワークを構築するための取組を進めた。また若手研究者の長期派遣先についても、ノースカロライナ大学やセントルイス・ワシントン大学にも派遣し、国際的共同研究ネットワークの拡大に努めた。

■ 自由記述欄

海外で活躍する卒業生による、キャリア形成/グローバル教育への協力

海外トップ教育研究機関で活躍している本学卒業生を短期招聘し、キャリア形成およびグローバル教育のための講義や交流会を集中的に開催する特別プログラムを平成27年度より開始している。平成29年度にも英国・米国で活躍する卒業生をそれぞれ1名ずつ招聘し、大学院生対象特別講義、英語研究プレゼンテーション上達レッスン、キャリア形成に関しての対話型講義を実施した。

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)において、平成27年度より高大連携先高等学校生徒にも門戸を開き、平成29年度は3校から17名が参加した。



〈VSLOを利用した海外臨床医学留学〉



〈笠原典之先生による特別講義〉

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東京医科歯科大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(グローバルヘルスリーダー養成プログラム(MPH)、国際社会人大学コース、TMDU型歯科医学グローバルネットワーク展開人材育成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業など)を中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数が順調に増数した。また、過去70年間に本学に在籍した学部生、大学院生、大学院研究生(専攻生)等の外国人留学生の在籍時情報や卒業/修了後進路情報をまとめた留学生アラムナイ(同窓生)データベースを構築した。これにより定期的なアラムナイ通信の配信や各種調査に対応することができ、大学とアラムナイとのより強固なネットワークを確立することが期待される。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修を、外部機関の協力のもと平成27年度より毎年実施している。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、翌年度内に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。平成30年度は48名が参加した。加えて、学内教員向けに、ネイティブ英語教員による英語プレゼンテーション・レクチャー指導ワークショップを毎週開催している。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始した(平成30年度は34科目を開講)。修士/博士課程におけるコースワークは、平成30年度開設科目(通年)の62%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的な語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数した。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に1機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計12名)、大学院学生研究奨励賞(合計3名)等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充し、平成30年度には学士課程学生の合計152名が海外留学に参加した。統合国際機構における「Global Gateway」部門において、海外への派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的に行い、ワンストップサービスを提供している。

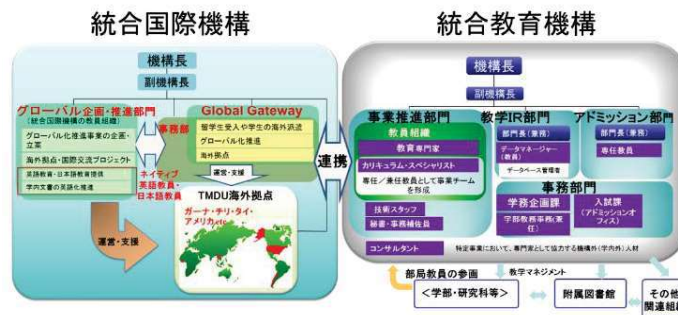
ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、平成25年度は17名であったが、平成31年度には34名に達し、目標達成に向け着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進と適所配置、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより語学力の向上度合いを測り、事務職員および事務体制の国際化対応力強化を図っている。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した(いずれも平成27年度設置)。外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を統合国際機構所属とし(兼任を含む)、本学教育改革・グローバル化推進のための様々な案件に取り組む複数のチームを、それぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想を推進している。



〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を行う教学IR部門を統合教育機構内に配備し、教育の継続的質改善および大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供している。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構教育技法開発チームが中心となり、アクティブラーニング推進の全教員を対象とした必修教員研修を平成29年度に開始し(平成30年度末までに114名が受講済)、教育理論の理解、教育技法および教材作成技能の習得を図っている。さらに今後は、同教員研修で学んだものを実際の担当授業で活用できるよう、希望する教員全員に受講させることするなど、より発展的な取組を予定している。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

平成30年度入試(平成30年4月入学)より特別選抜 I (推薦入試)、特別選抜 II (国際バカロレア入試)及び特別選抜 III (帰国生入試)を開始した。いずれの入試においても、TOEFL iBTテスト等のスコアレポートを、選抜のための評価の一つとして活用している。修士/博士課程については、平成29年度入試(平成29年度入学)からのTOEFL ITP試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会の拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びている(平成31年度新規開始予定の留学プログラムでさらに15名増数を予定)。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数
 学士課程学生対象プログラムについては正規履修生(フルメンバーシップ)定員増数とともに、より多くの学生が様々な形で本プログラムを利用できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したアソシエイトメンバーシップ(アソシエイト)を設立し拡大を図っている(平成30年度末現在、メンバー132名、アソシエイト42名)。修士/博士課程学生対象プログラムは平成28年度に開講、平成30年度は37名が新規履修開始した。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置、グローバルヘルスリーダー養成コースの開講などを進め、外国人留学生の増数を図り、多様性に富む学修・研究環境の整備を進めている。

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士課程)履修者数

アジア地域を中心とした優秀な学生を集め、地球規模の健康課題に対して生物・社会的な両面から解決にあたる人材育成・輩出のために、完全英語履修コースとし、春および秋入学を実施するとともに、ハーバード大学、ジョンズホプキンス大学、世界保健機関(WHO)などから教員を招聘し短期集中講義を行う。修士コースは平成30年度に開講し、同年度は5名が履修。博士コースは平成32年度開講予定である。



〈グローバルヘルスリーダー養成コース授業〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開設し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成30年度に修士コースを開講した。平成32年度には博士コースを開講予定である。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、広報誌やFacebook、プレスリリース、記者懇談会等を通じて本学の特色や最新の研究成果、海外教育研究拠点の活動等を国内外に向けて積極的に情報発信している。海外に向けて作成している研究広報誌「Research Activities 2019」を発行し、本学の強みである研究領域について情報発信を行っているが、平成30年度は従来から同誌の内容を国際的な研究者に発信するために利用していたターゲティングメールの配信数を1万件から2万件に拡大し、送信ターゲットについてもWeb of Scienceに掲載されている研究論文の責任著者を中心とすることに変更するという施策を実行した。また、新たな取組として、学内各署による協力のもと、Japanese College and University Portraits(国際版大学ポートレート)に本学の情報を掲載し、海外に向けて情報発信を開始した。こうした積極的なアウトリーチ活動の結果、世界大学評価機関のクアアカレリ・シモンズ(QS)に発表された分野別 QS 世界大学ランキングの歯学分野において、日本第1位、世界第10位、医学分野は日本第3位、世界51-100位の高評価を獲得し、特に歯学分野においては、Academic Reputation(全世界の当該分野の大学教員からの評判スコア)が世界第2位の高評価を得た。

海外教育機関とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)

平成30年10月にテリ大学(Uch)とのJDP「国際連携医学系専攻」に学生1名が入学し、在学学生は計4名となった。平成30年9月にはUch教員が本学を訪問し、教職員FD研修及び会議を行い、平成31年3月には自己点検・評価を実施した。またチュラロンコン大学(CU)とのJDP「国際連携歯学系専攻」においては、平成30年8月に3名が入学し、在学学生は計9名となった。同月には本学教員がCUを訪問し、現地で直接学生相談・指導及び簡単な講義を行い、平成31年3月から4月には、自己点検・評価、外部評価及びFD研修を実施した。

海外教育機関との連携実績

(協定機関の増数) 平成30年度は新たに1機関と協定を締結

(連携のもとでの学生交流実績) 平成30年度も、インペリアル・カレッジ・ロンドン(医学科)やチュラロンコン大学(医学科、保健衛生学科)、インドネシア大学(歯学科)、マヒドン大学(医学科、口腔保健学科)等、多くの海外大学との学生交流実績を上げた。中でも、本学は米国医科大学協会が設立する海外臨床医学学習機会提供ネットワーク(Visiting Students Learning Opportunities, VSLO)に加盟するわが国における数少ない機関の一つであるが、VSLOを利用した学生派遣および受入が(それぞれ1名)実施された。

(連携のもとでの教職員交流実績)

医学と歯学の研究面での情報交換を主な目的として、本学とカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)及び南カリフォルニア大学(USC)との三大学間の交流を深め、「1st TMDU-UCSD-USC Joint Symposium」を本学で開催し、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)及び南カリフォルニア大学(USC)から各研究分野で活躍している研究者6名を招聘し、講演やディスカッションを行った。

(世界トップ機関との研究連携実績)

平成30年度も複数の世界トップ機関と共同研究を行っており、まず5月にドイツマックスプランク研究所(MPIIB)、ドイツリウマチ研究センター(DRFZ)との共同研究で、あらゆる免疫細胞をつくり出す希少な血液前駆細胞を迅速、簡便かつ安全な方法で大量生産する方法を開発した。さらに東京大学、スタンフォード大学、東海大学との共同研究により、平成31年2月にヒトiPS細胞由来肝星細胞の作製と細胞間相互作用を介した肝細胞の成熟化に成功したほか、平成31年3月ヒトiPS細胞を用いた疾患モデルを開発し、難治性肝疾患の病態解明に成功している。(文部科学省科学研究費補助金基盤研究の支援による)



〈VSLOを利用した海外臨床医学留学〉



〈笠原典之先生による特別講義〉

■ 自由記述欄

海外で活躍する卒業生による、キャリア形成/グローバル教育への協力

海外トップ教育研究機関で活躍している本学卒業生を短期招聘し、キャリア形成およびグローバル教育のための講義や交流会を集中的に開催する特別プログラムを平成27年度より開始している。平成30年度にも英国・米国で活躍する卒業生をそれぞれ1名ずつ招聘し、大学院生対象特別講義、英語研究プレゼンテーション上達レッスン、キャリア形成に関しての対話型講義を実施した。

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)において、平成27年度より高大連携先高等学校生徒にも門戸を開き、平成30年度は3校から17名が参加した。

7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【東京医科歯科大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(グローバルヘルスリーダー養成プログラム(MPH)、国際社会人大学コース、TMDU型歯科医学グローバルネットワーク展開人材育成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業など)を中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数が順調に増数した。また、過去70年間に本学に在籍した学部生、大学院生、大学院研究生(専攻生)等の外国人留学生の在籍時情報や卒業/修了後進路情報をまとめた留学生アラムナイ(同窓生)データベースを構築した。これにより定期的なアラムナイ通信の配信や各種調査に対応することができ、大学とアラムナイとのより強固なネットワークを確立することが期待される。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修を、外部機関の協力のもと平成27年度より毎年実施している。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、翌年度内に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。令和元年度は20名が参加した。加えて、学内教員向けに、ネイティブ英語教員による英語プレゼンテーション・レクチャー指導ワークショップを毎週開催している。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始した(令和元年度は38科目を開講)。修士/博士課程におけるコースワークは、令和元年度開設科目(通年)の62.4%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的な語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数した。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に3機関と締結(他2機関の署名待ち))、学部学生海外研修奨励賞(合計14名)、大学院学生研究奨励賞(合計10名)等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充し、令和元年度には学士課程学生の合計137名(実績)(当初173名予定)が海外留学に参加した。統合国際機構における「Global Gateway」部門において、海外への派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供している。

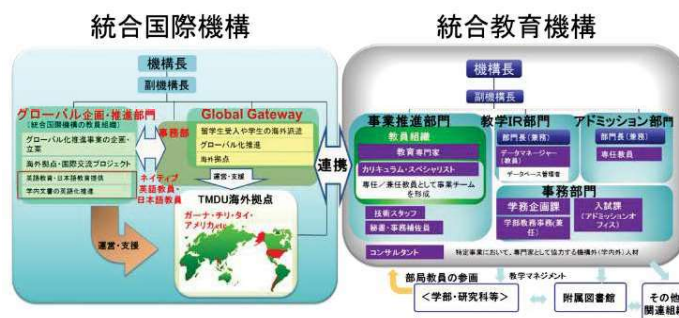
ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、平成25年度は17名であったが、令和元年度には36名に達し、目標達成に向けて増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進と適所配置、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより語学力の向上度合いを測り、事務職員および事務体制の国際化対応力強化を図っている。

迅速な意思決定を実現する工夫: 統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した(いずれも平成27年度設置)。外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を統合国際機構所属とし(兼任を含む)、本学教育改革・グローバル化推進のための様々な案件に取り組み複数のチームを、それぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想を推進している。



〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を行う教育IR部門を統合教育機構内に配備し、教育の継続的質改善および大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供している。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構教育技法開発チームが中心となり、アクティブラーニング推進の全教員を対象とした必修教員研修を平成29年度に開始し(令和元年度末までに1657名が受講済)、教育理論の理解、教育技法および教材作成技能の習得を図っている。さらに今後は、同教員研修で学んだものを実際の担当授業で活用できるよう、希望する教員全員に受講させることするなど、より発展的な取組を予定している。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的な入学選抜の実施

平成30年度入試に開始した特別選抜 I (推薦入試)(令和元年度は募集42名/応募164名/合格42名)、特別選抜 I (国際バカロレア入試)(募集若干名/応募11名/合格1名)及び特別選抜 II (帰国生入試)(募集若干名/応募2名/合格0名)を実施した。いずれの入試においても、TOEFL iBTテスト等のスコアレポートを、選抜のための評価の一つとして活用している。修士/博士課程については、平成29年度入試(平成29年度入学)からのTOEFL ITP試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会の拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びている(令和元年度新規開始の留学プログラムで34名留学)。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数
 学士課程学生対象プログラムについては正規履修生(フルメンバーシップ)定員増数とともに、より多くの学生が様々な形で本プログラムを利用できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したアソシエイトメンバーシップ(アソシエイト)を設立し拡大を図っている(令和元年度末現在、メンバー126名、アソシエイト70名)。修士/博士課程学生対象プログラムは平成28年度に開講、令和元年度は76名が新規履修開始した。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置、グローバルヘルスリーダー養成コースの開講などを進め、外国人留学生の増数を図り、多様性に富む学修・研究環境の整備を進めている。

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士課程)履修者数

アジア地域を中心とした優秀な学生を集め、地球規模の健康課題に対して生物・社会的な両面から解決にあたる人材育成・輩出のために、完全英語履修コースとし、春および秋入学を実施するとともに、ハーバード大学、ジョーンズホプキンス大学、世界保健機関(WHO)などから教員を招聘し短期集中講義を行う。修士コースは平成30年度に開講し、令和元年度は9名募集に対して12名応募があり、同年度は13名が履修。博士コースは令和2年度開講する。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈グローバルヘルスリーダー養成コース授業〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標とした修士/博士コースを開設し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成30年度に修士コースを開講した。令和2年度には博士コースを開講する。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、広報誌やFacebook、プレスリリース、記者懇談会等を通じて本学の特色や最新の研究成果、海外教育研究拠点の活動等を国内外に向けて積極的に情報発信しているほか、令和元年度には、Facebook, LinkedIn, Twitter, Instagramの4メディアについて、英文にて本学の研究活動等を中心として随時発信し、海外向けを中心に広報活動を拡充した。また、海外に向けて作成している研究広報誌「Research Activities 2020」を発行し、本学の強みである研究領域について情報発信を行った。さらに、ターゲットメールは、代表的な研究論文データベースであるweb of scienceに掲載されている研究論文の責任著者及び過去に共同研究や留学生の受け入れ、派遣をした相手先の研究者などへ情報発信した。こうした取組により、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)が発表した世界大学ランキング2020のClinical, pre-clinical & health(臨床、前臨床および健康分野)において、前年の126-150位から74位にランクアップしている。

海外教育機関とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)

令和元年10月にチリ大学(Uch)とのJDP「国際連携医学系専攻」に学生1名が入学し、在学学生は計5名となった。令和2年3月に初めてビデオにて教職員FD研修を行い、多数の教員が視聴した。またチュラロンコーン大学(CU)とのJDP「国際連携歯学系専攻」においては、令和元年8月に3名が入学し、在学学生は計12名となった。同月には本学教員がCUを訪問し、現地で直接学生相談・指導及び簡単な講義を行い、令和元年11月から2月には、自己点検・評価、外部評価及びオンラインでFD研修を実施した。令和2年4月からはマヒドン大学シリラート病院医学部とのJDPが開講予定である。

海外教育機関との連携実績

(協定機関の増数) 令和元年度は新たに3機関と協定を締結(他に2機関の署名待ち)

(連携のもとでの学生交流実績) 令和元年度も、インペリアル・カレッジ・ロンドン(医学科)やチュラロンコーン大学(保健衛生学科)、マヒドン大学(医学科、口腔保健学科)等、多くの海外大学との学生交流実績を上げた。

(連携のもとでの教職員交流実績)

本学と台北医学大学は平成25年より過去4回、研究に関する合同シンポジウムを相互に開催し交流を深めてきたが、台湾の協定校との学術交流を更に幅広く発展させていくため、今般、国立台湾大学および国防医学院を加えた4大学による合同シンポジウムとして規模を拡大して開催することとし、記念となる第1回目を幹事校の台北医学大学にて開催した。今回は「Medical Innovation」をテーマに各大学から最新の研究内容の発表があった。

(世界トップ機関との研究連携実績)

令和元年度も複数の世界トップ機関と共同研究を行っており、9月には米国シンシナティ小児病院との共同研究で、ヒトiPS細胞から連続した複数(肝・胆・脾)の臓器を同時発生させる技術を確認し、多臓器の形成に異常が生じる遺伝疾患を試験管内で再現することに成功した。11月にはKing's College Londonとの共同研究で、舌の形態・運動異常に、発生期のShhシグナル伝達の低下が関与していることをつきとめた。また、令和2年1月には米国衛生研究所(NIH)との共同研究で、野生動物から単離されたウイルス由来のタンパク質がヒトの防御機構を克服する機能について明らかにしている。

■ 自由記述欄

海外で活躍する卒業生による、キャリア形成/グローバル教育への協力

海外トップ教育機関で活躍している本学卒業生を短期招聘し、キャリア形成およびグローバル教育のための講義や交流会を集中的に開催する特別プログラムを平成27年度より開始している。令和元年度にも英国・米国で活躍する卒業生をそれぞれ1名ずつ招聘し、大学院生対象特別講義、英語研究プレゼンテーション上達レッスン、キャリア形成に関しての対話型講義を実施した。

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)において、平成27年度より高大連携先高等学校生徒にも門戸を開き、令和元年度は2校から4名が参加した。



〈高田正雄先生による特別講義〉

8. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【東京医科歯科大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(グローバルヘルスリーダー養成プログラム(MPH)、国際社会人大学コース、歯科医学グローバルキャンパスプログラム、TMDU型歯科医学グローバルネットワーク展開人材育成プログラム、TMDU型データサイエンス医学研究国際人材育成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業など)を中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数が順調に増数した。

過去70年間に本学に在籍した学部生、大学院生、大学院研究生(専攻生)等の外国人留学生の在籍時情報や卒業/修了後進路情報をまとめた留学生アラムナイ(同窓生)データベースを構築した。これにより定期的なアラムナイ通信の配信や各種調査に対応することができ、大学とアラムナイとのより強固なネットワークを確立することが期待される。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修を、外部機関の協力のもと平成27年度より毎年実施している。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、翌年度内に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。令和2年度は25名が参加した。加えて、学内教員向けに、ネイティブ英語教員による英語プレゼンテーション・レクチャー指導ワークショップを開催している。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二カ国語履修化を平成28年度より開始した(令和2年度は38科目を開講)。修士/博士課程におけるコースワークは、令和2年度開設科目(通年)の63.5%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的な語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数している。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(令和2年度末時点で87機関と協定締結中)、学部学生海外研修奨励賞、大学院学生研究奨励賞等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充し、留学支援を行っている。実際、新型コロナウイルスパンデミック勃発前の平成30年度時点では学士課程学生の合計152名が海外留学に参加した。統合国際機構における「Global Gateway」部門において、海外への派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、派遣中のサポート、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供している。新型コロナウイルスパンデミックの影響で海外留学機会が減少した令和2年度は、オンライン国際交流の企画・調整を行い、学生の国際的視野獲得や海外ネットワーク構築を広く支援した。

ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、平成25年度は17名であったが、令和2年度には41名に達し、目標達成に向け着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進と適所配置、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより語学力の向上度合いを測り、事務職員および事務体制の国際化対応力強化を図っている。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した(いずれも平成27年度設置)。外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を統合国際機構所属とし(兼任を含む)、本学教育改革・グローバル化推進のための様々な案件に取り組む複数のチームを、それぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想を推進している。



〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を行う教学IR部門を統合教育機構内に配備し、教育の継続的質改善および大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供している。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構教育技法開発チームが中心となり、アクティブラーニング推進の全教員を対象とした必修教員研修を実施し、教育理論の理解、教育技法および教材作成技能の習得を図っている。令和2年度は新型コロナウイルスパンデミックのために全学的に遠隔教育が実施されたが、反転授業や少人数学習を含めたアクティブラーニングの遠隔教育への導入/拡大を図るため教員研修を複数回実施した。学習者調査により、前年の対面授業に比較し、遠隔授業となった令和2年度の方がより双方向性学習機会が多く、また学習の質が高かったことが判明した。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

平成30年度入試(平成30年4月入学)より特別選抜 I (推薦入試)、特別選抜 I (国際バカロレア入試)及び特別選抜 II (帰国生入試)を開始した。いずれの入試においても、TOEFL iBTテスト等のスコアレポートを、選抜のための評価の一つとして活用している。修士/博士課程については、平成29年度入試(平成29年度入学)からのTOEFL ITP試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会の拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びてきた。新型コロナウイルスパンデミックの影響で海外留学機会が減少した令和2年度は、オンライン国際交流の企画・調整を行い、学生の国際的視野獲得や海外ネットワーク構築を広く支援した。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数

学士課程学生対象プログラムについては正規履修生(フルメンバーシップ)定員増数とともに、より多くの学生が様々な形で本プログラムを利用できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したアソシエイトメンバーシップ(アソシエイツ)を設立し拡大を図っている(令和2年度末現在、フルメンバー112名、アソシエイツ76名。)修士/博士課程学生対象プログラムは平成28年度に開講、令和2年度は54名が新規履修開始した。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置、グローバルヘルスリーダー養成コースの開講などを進め、外国人留学生の増数を図り、多様性に富む学修・研究環境の整備を進めている。

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士課程)履修者数

アジア地域を中心とした優秀な学生を集め、地球規模の健康課題に対して生物・社会的な両面から解決にあたる人材育成・輩出のために、完全英語履修コースとし、春および秋入学を実施するとともに、ハーバード大学、ジョンズホプキンス大学、世界保健機関(WHO)などから教員を招聘し短期集中講義を行う。修士コースは平成30年度に開講し、令和2年度は22名が履修。博士コースは令和2年度に開講した。



〈オンライン国際交流に参加する学生〉



〈グローバルヘルスリーダー養成コース授業〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開設し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成30年度に修士コースを開講、令和2年度には博士コースを開講した。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、広報誌やFacebook、プレスリリース等を通じて本学の特色や最新の研究成果、海外教育研究拠点の活動等を国内外に向けて積極的に情報発信している。令和2年度には最新研究紹介を中心とした動画を制作して海外向けに配信し、それに基づいて国際研究広報誌「TMDU Research Activities2020-2021」を発行し、本学の強みである研究領域について国際的に情報発信を行うとともに、研究者向けのターゲットングメールを47,174件配信した。その他、SNSを活用した国際的プレゼン強化促進の取組として、国際プレスリリースと同時にTwitterでも発信を開始することで、本学の最先端研究成果を論文発行とほぼ同時に全世界に向けて発信することができるようになった。こうした積極的なアウトリーチ活動の結果、世界大学評価機関のクアクアレリ・シモンズ(QS)に発表された分野別 QS 世界大学ランキング2021において、歯学分野は日本第1位、世界第5位タイ、医学分野は日本第4位、世界114位タイの高評価を獲得し、特に歯学分野においては、Academic Reputation(全世界の当該分野の大学教員からの評判スコア)が世界第1位の高評価を得た。

海外教育機関とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)

令和元年10月にチリ大学(UCh)とのJDP「国際連携医学系専攻」に学生1名が入学し、在学学生は計5名となった。令和2年3月には自己点検・評価を実施した。またチュラロンコン大学(CU)とのJDP「国際連携歯学系専攻」においては、令和2年8月に3名が入学し、在学学生は計14名となった。令和2年3月には、自己点検・評価及び外部評価を実施した。令和2年4月からはマヒドン大学(MU)とのJDP「国際連携医学系専攻」が開講され、学生3名が入学した。また新型コロナウイルス感染拡大の影響より、連携外国大学の教員が来日できなかったため、初の試みとして、毎年各JDPで実施されていた教職員FD研修を、3JDP合同で実施することとし、令和3年3月に各大学の講演者の講演を録画し編集した動画を、本学では学習管理システムWebClassを使用して教職員に公開し、オンデマンドでの受講ができるようにした。

海外教育機関との連携実績

(協定機関の増数) 令和2年度は新たに1機関と協定を締結

(連携のもとでの学生交流実績) 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実際の派遣ができなかったため、協定校を中心にオンラインでの国際交流を行った。ワシントン大学(保健衛生学科)、マヒドン大学(医学科、歯学部)、シーナカリンウィロート大学(全学)、セイナヨキ応用科学大(保健衛生学科)、キングスカレッジ(歯学部)、台湾医科大学(口腔保健学科)、プリンセスチュラボン大学(医学科)等、多くの大学と交流を行い、延べ161名の学生が参加した。

(連携のもとでの教職員交流実績)

本学教員、大学院生、元留学生在が合計76名世界27か国からオンライン上に集結し、国際シンポジウム2020を行った。このシンポジウムでは若手教員による新しい取り組みに関するプレゼンテーションや今後の歯科研究・教育・臨床に関するグループディスカッション及びプレゼンテーション等を通して、互いにグローバルネットワークを深める場となり、また世界の歯科医療従事者・歯学教育者の意見交換の機会となった。

(世界トップ機関との研究連携実績)

令和2年度も継続して複数の世界トップ機関と共同研究を行った。たとえば、スウェーデンカロリンスカ研究所との共同研究では、ヒトの抗体産生不全症の新しい原因遺伝子を世界で初めて発見した(文部科学省科学研究費補助金ならびに厚生労働省難治性疾患政策研究事業原発免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究班の支援による)。また、米国ハーバード大学医学大学院ベス・イスラエル・ディーコネス・メディカルセンターおよびダナ・ファーマー癌研究所との共同研究では、免疫チェックポイント分子が様々な癌細胞核内で免疫応答や炎症反応に関わる遺伝子の転写誘導を制御していることを明らかにした(文部科学省科学研究費補助金や日本学術振興会人材育成事業、早石修記念海外留学助成の支援による)。

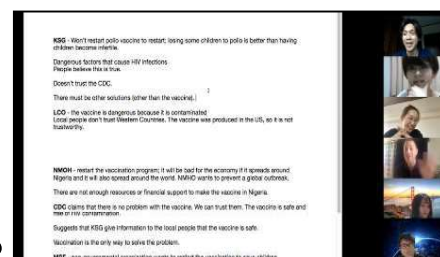
■ 自由記述欄

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)において、平成27年度より高大連携先高等学校生徒にも門戸を開き、令和2年度は4校から27名が参加した。

海外留学者増数に向けた内的動機付けのための取組

海外留学者増数に向け、上記国際保健問題英語模擬交渉ワークショップに加え、内的動機付けのために、オンライン国際交流機会(Discussion Café、令和2年度は5回実施し本学学生のべ106名が参加)、ロールモデル発見のための取組(Find-Your-Role-Model session、令和2年度は6回実施)を行なって



〈国際保健問題英語模擬交渉ワークショップ〉

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(グローバルヘルスリーダー養成プログラム(MPH)、国際社会人大学コース、歯科医学グローバルキャンパスプログラム、TMDU型歯科医学グローバルネットワーク展開人材育成プログラム、TMDU型データサイエンス医学研究国際人材育成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業など)を中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数が順調に増数した。

過去70年間に本学に在籍した学部生、大学院生、大学院研究生(専攻生)等の外国人留学生の在籍時情報や卒業/修了後進路情報をまとめた留学生アラムナイ(同窓生)データベースを構築した。これにより定期的なアラムナイ通信の配信や各種調査に対応することができ、大学とアラムナイとのより強固なネットワークを確立することが期待される。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修を、外部機関の協力のもと平成27年度より毎年実施している。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、翌年度内に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。令和3年度は30名が参加した。加えて、学内教員向けに、ネイティブ英語教員による英語プレゼンテーション・レクチャー指導ワークショップを開催している。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始した(令和3年度は37科目を開講)。修士/博士課程におけるコースワークは、令和3年度開設科目(通年)の61.7%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的な語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数している。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(令和3年度末時点で80機関と協定締結中)、学部学生海外研修奨励賞、大学院学生研究奨励賞等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充し、留学支援を行なっている。実際、新型コロナウイルスパンデミック勃発前の平成30年度時点では学士課程学生の合計152名が海外留学に参加した。統合国際機構における「Global Gateway」部門において、海外への派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、派遣中のサポート、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供している。新型コロナウイルスパンデミックの影響で海外留学機会が減少した令和2年度からは、オンライン国際交流の企画・調整を行い、学生の国際的視野獲得や海外ネットワーク構築を広く支援している。

ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、平成25年度は17名であったが、令和3年度には48名に達し、目標達成に向けて着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進と適所配置、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより語学力の向上度合いを測り、事務職員および事務体制の国際化対応力強化を図っている。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した(いずれも平成27年度設置)。外国人教員や外国で教育を受けた日本人教員を統合国際機構所属とし(兼任を含む)、本学教育改革・グローバル化推進のための様々な案件に取り組む複数のチームを、それぞれの機構に属する教員の混成により部門横断的に組織し、両機構間の強い連携のもと、本構想を推進している。



IR機能の強化・充実

〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を行う教育IR部門を統合教育機構内に配備し、教育の継続的質改善および大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供している。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構教育技法開発チームが中心となり、アクティブラーニング推進の全教員を対象とした必修教員研修を実施し、教育理論の理解、教育技法および教材作成技能の習得を図っている。令和3年度は新型コロナウイルスパンデミックのために全学的に遠隔教育が実施されたが、反転授業や少人数学習を含めたアクティブラーニングの遠隔教育への導入/拡大を図るため教員研修を令和2年度に引き続き実施した。学習者調査により、到達目標に応じた授業形態の選択(同期、非同期、対面、遠隔)についての満足度と今後のさらなる発展への期待度が高いことが判明した。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

平成30年度入試(平成30年4月入学)より特別選抜 I (推薦入試)、特別選抜 I (国際バカロレア入試)及び特別選抜 II (帰国生入試)を開始した。いずれの入試においても、TOEFL iBTテスト等のスコアレポートを、選抜のための評価の一つとして活用している。修士/博士課程については、平成29年度入試(平成29年度入学)からのTOEFL ITP試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会の拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びてきた。新型コロナウイルスパンデミックの影響で海外留学機会が減少した令和2年度より、オンライン国際交流を実施し、学生の国際的視野獲得や海外ネットワーク構築を広く支援している。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数
 学士課程学生対象プログラムについては正規履修生(フルメンバーシップ)定員増数とともに、より多くの学生が様々な形で本プログラムを利用できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したアソシエイトメンバーシップ(アソシエイツ)を設立し拡大を図っている(令和3年度末現在、フルメンバー105名、アソシエイツ63名。)修士/博士課程学生対象プログラムは平成28年度に開講、令和3年度は38名が新規履修開始した。



〈オンライン国際交流に参加する学生〉

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置、グローバルヘルスリーダー養成コースの開講などを進め、外国人留学生の増数を図り、多様性に富む学修・研究環境の整備を進めている。

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士課程)履修者数

アジア地域を中心とした優秀な学生を集め、地球規模の健康課題に対して生物・社会的な両面から解決にあたる人材育成・輩出のために、完全英語履修コースとし、春および秋入学を実施するとともに、ハーバード大学、ジョンズホプキンス大学、世界保健機関(WHO)などから教員を招聘し短期集中講義を行う。修士コースは平成30年度に開講し、令和3年度は27名が履修。博士コースも令和2年度に開講し、令和3年度は4名が履修した。



〈グローバルヘルスリーダー養成コース授業〉

国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成・研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開設し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成30年度に修士コースを開講、令和2年度には博士コースを開講した。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、広報誌やFacebook、プレスリリース等を通じて本学の特色や最新の研究成果、海外教育研究拠点の活動等を国内外に向けて積極的に情報発信している。令和3年度も最新研究紹介を中心とした動画を制作して海外向けに配信し、それに基づいて国際研究広報誌「TMDU Research Activities2021-2022」を発行し、本学の強みである研究領域について国際的に情報発信を行うとともに、研究者向けのターゲティングメールを100,000件配信した。その他、SNSを活用した国際的プレゼンス強化促進の取組として、国際プレスリリースと同時にTwitterでも発信を開始することで、本学の最先端研究成果を論文発行とほぼ同時に全世界に向けて発信することができるようになった。こうした積極的なアウトリーチ活動の結果、世界大学評価機関のクアクアレリ・シモンズ(QS)に発表された分野別 QS 世界大学ランキング2022において、歯学分野は日本第1位、世界第6位、医学分野は日本第4位、世界135位タイの高評価を獲得し、特に歯学分野においては、Academic Reputation(全世界の当該分野の大学教員からの評判スコア)が世界第1位の高評価を得た。

海外教育機関とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)

令和3年10月にチリ大学(UCh)とのJDP「国際連携医学系専攻」に学生1名が入学し、在学学生は計5名となった。令和3年7月には自己点検・評価を実施した。またチュラロンコン大学(CU)とのJDP「国際連携歯学系専攻」においては、令和3年7月に初めての修了者を2名輩出した。令和3年8月に2名が入学し、在学学生は計14名となった。令和4年3月には、自己点検・評価及び外部評価を実施した。マヒドン大学(MU)とのJDP「国際連携医学系専攻」においては、令和3年4月に学生3名が入学し、在学学生は計6名となった。昨年度に引き続き、教職員FD研修を、3JDP合同で実施し、令和4年3月に各大学の講演者の講演を録画し編集した動画を、本学では学習管理システムWebClassを使用して教職員に公開し、4大学合計で約250名が視聴した。

海外教育機関との連携実績

(協定機関の増数) 令和3年度は新たに2機関と協定を締結

(連携のもとでの学生交流実績) 令和3年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響で実際の派遣ができなかったため、協定校を中心にオンラインでの国際交流を行った。ワシントン大学(保健衛生学科)、チュラロンコン大学(医学科、歯学部)、シーナカリンウィロート大学(歯学部)、セイナヨキ応用科学大学(保健衛生学科)、キングス・カレッジ・ロンドン(歯学部)、台北医学大学(口腔保健学科)、プリンセススリーサウンカワット医科大学、チュラボンロイヤルアカデミー(医学科)等、多くの大学と交流を行い、延べ263名の学生が参加した。

(連携のもとでの教職員交流実績)

令和3年度から新しい試みとしてハーバード大学医学部の元カリキュラム改革主要メンバーであり、米国内外から集まるHarvard Macy Instituteによるカリキュラム管理者を対象とした教員研修プログラムのディレクターを務める教育学者を本学の特任教授として招聘し、医歯学教育におけるカリキュラム改革等についての定例オンライン講習会を行った。これには本学の医歯学教育カリキュラム企画管理に携わる教職員が参加し、米国最先端の教育プログラムを学び意見交換を行うなど関係性を深める機会となった。

(世界トップ機関との研究連携実績)

令和3年度も継続して複数の世界トップ機関と共同研究を行った。たとえば、米国国立衛生研究所(NIH)及びロックフェラー大学らとの共同研究では、新しい免疫不全症を同定し、その病気の発症機構がヘテロマー干渉阻害という機序によるものであることを初めて明らかにした(文部科学省科学研究費補助金の支援による)。また、米国ハーバード大学らとの共同研究では、上皮が持つ幹細胞の品質管理機構を発見した(国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)や文部科学省科学研究費学術変革領域研究などの支援による)。さらに、コペンハーゲン大学らとの共同研究では、様々な種類の腸オルガノイドのマウス大腸への移植方法を確立した(文部科学省科学研究費補助金、日本医療研究開発機構(AMED)、Marie Curie fellowship(EU)、the DFF Mobilex programme(デンマーク政府)、European Union's Horizon 2020 research and innovation programme(EU)、Novo Nordisk Foundation grantsなどの支援による)。

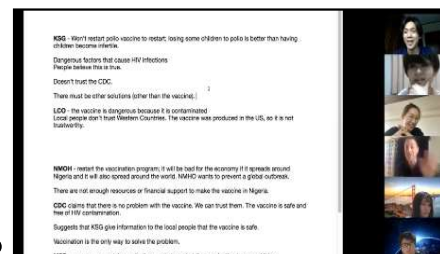
自由記述欄

優秀で志の高い入学獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)において、平成27年度より高大連携先高等学校生徒にも門戸を開き、令和3年度は4校から6名が参加した。

海外留学者増数に向けた内的動機付けのための取組

海外留学者増数に向け、上記国際保健問題英語模擬交渉ワークショップに加え、内的動機付けのために、オンライン国際交流機会(Discussion Café、令和3年度は3回実施し本学学生のべ67名が参加)、ロールモデル発見のための取組(Find-Your-Role-Model session、令和3年度は5回実施)を行なっている。



〈国際保健問題英語模擬交渉ワークショップ〉